

令和2年度「鳥取県農業改良普及所外部評価検討会」の開催結果について

令和3年4月21日
経営支援課

本県の農業改良普及活動に対して各方面の委員の皆様から評価をいただき、その結果を今後の普及組織体制、普及活動に反映し、よりの確で効果的な現地支援活動を展開することを目的に、以下のとおり、標記検討会を開催しました。この検討会は平成27年度から開催しており、この度が第6回目となります。

1 外部評価検討会の手順

(1) 各普及所管内における「地域の意見を聴く会」

- ①実施時期 2月中旬～下旬
- ②出席者 管内農業者（指導農業士等）、市町村・JA担当課長ほか
- ③内容 各地域における日頃の普及活動や今後の計画に対する意見・要望を聴取

(2) 全県の外部評価検討会

- ①開催日場所 令和3年3月18日（木）園芸試験場講堂にて
- ②出席者 農業者代表（指導農業士等）4名、鳥取大学・JA・報道機関・民間事業者からの代表者各1名、消費者代表（公募委員）1名の合計9名（男性5名、女性4名）
- ③評価対象課題（7課題）
 - ・令和2年度主要普及課題（評価委員が、各普及所の候補3～4課題の中から1課題を選定）

2 評価結果（※意見等の詳細は、別紙）

優れた取組との評価が4課題、妥当な取組との評価が3課題あり、今後の効率的な普及活動についての具体的な改善事項についても提言をいただいた。

令和2年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

	区分	評価対象普及活動課題名	普及指導活動の計画・課題設定	普及活動の経過と体制	普及指導活動の成果	合計点	評価
鳥取	野菜花き	らっきょうの安定生産と産地の活性化	4.4	4.1	7.6	16.1	◎
八頭	野菜花き	水田導入野菜・花の収量向上	4.4	4.0	6.9	15.3	○
倉吉	作物	イネ縞葉枯病被害状況把握と軽減技術の普及	4.7	4.4	8.4	17.6	◎
東伯	作物	北栄町におけるスクミリンゴガイ拡大防止	4.3	4.2	7.6	16.1	◎
西部	果樹	梨の生産安定と産地振興	4.6	4.0	7.5	16.1	◎
大山支所	総合支援	労務負担軽減の推進（ブロックリー、白ネギ）	4.3	4.0	7.5	15.8	○
日野	畜産	畜産産地再興を目指した担い手の育成と支援	4.0	4.0	7.0	15.0	○

注) 平均の端数処理の関係で、合計点は必ずしも一致しない。

(5点配点) (5点配点) (10点配点) (20点満点)

【点数結果の凡例】 ◎ 16点以上	: 優れた取組である
○ 12点以上16点未満	: 妥当な取組である
△ 12点未満	: 成果に乏しい取組である

(1) 評価の高かった取組

- らっきょうの安定生産に向け「洗いらっきょう根葉切機」の開発、現地実証試験・改良を経て製品化し、生産現場への導入まで至った点は評価できる（鳥取）。
- イネ縞葉枯病対策を関係機関と連携し、現状分析、問題点の把握、防除対策の実証試験等を行い総合的な防除方法を確立するなどの成果が得られ、湯梨浜町内だけでなくJA鳥取中央管内の生産者にも波及している（倉吉）。
- スクミリンゴガイ被害の緊急的対策を関係機関と連携しながら取組んでいる。被害調査の地図化や各種対策試験の実施、啓発パンフレット配布など具体的な対策・手立てが講じられている（東伯）。

(2) 具体的な提言事項

- イネ縞葉枯病対策はより高い防除効果を目指して取り組みを続けて欲しい（倉吉）。
- 労務負担軽減の推進は規模拡大を目指すような若い生産者への対応も検討して欲しい（スマート農業・自動収穫機等）（大山）。

3 今後の対応

- 今回の結果はHP等で公開し、農家のみならず広く県民の皆様にも普及活動を情報発信する。
- 委員の意見をもとに、各普及所の普及活動計画を見直ししながら、効果的な普及活動となるように努めていく。

【別紙】

令和2年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

普及所等組織名: 評価課題名	取り組みの概要	点数	結果	委員からの主な意見
鳥取: らっきょうの安定生産と産地の活性化	福部らっきょうの安定生産と産地の活性化を目指し、「洗いらっきょう根葉切機」試作機を活用した現地実証試験等を関係機関とともにいい、精度、操作性等の確認、具体化していくための支援活動。	16.1	◎	・らっきょうの安定生産と産地の活性化に向け、「洗いらっきょう根葉切機」試作機での現地実証試験・改良を経て製品化し、生産現場への導入まで至った点は評価できる。 ・若い生産者を中心として将来ビジョン(担い手育成と確保、労働の軽減、根葉切機の導入等)をつくり、産地維持に期待したい。
八頭: 水田導入野菜・花の収量向上	管内の白ねぎは水田転換圃場での栽培が中心であり、管理機による排水対策では効果が不十分な圃場が多く、収量が低い圃場が多い。 このため、専用機械を用いた排水対策が収量向上につながることを現地圃場で実証し、白ねぎ生産者に排水対策の重要性を周知した活動。	15.3	○	・白ネギの定植後の灌水方法についてのリーフレット作成は生産者への指導情報として効果的だと思います。 ・農業者の意識・行動を変えるのは大変だが、八頭町内牧場産の堆肥活用や地元業者への排水対策の作業委託など、地元連携のいい仕組みができつつある。
倉吉: イネ縞葉枯病被害状況把握と軽減技術の普及	イネの重要病害であるイネ縞葉枯病が湯梨浜町の羽合平野を中心に多発している。 普及所は3~4年後の被害収束を目指し、JA、町、農試等、関係機関と連携しながら発生状況の把握や防除対策、防除方法の啓発などに取組んでいる。	17.6	◎	・イネ縞葉枯病対策を関係機関と連携し、現状分析、問題点の把握、防除対策の実証試験等を行い総合的な防除方法を確立するなどの成果が得られ、湯梨浜町内だけでなくJA鳥取中央管内の生産者にも波及。 ・引き続き、より高い防除効果を目指して取り組みを続けて欲しい。
東伯: 北栄町におけるスクミリンゴガイ拡大防止	北栄町では2年前よりスクミリンゴガイの分布が拡大し、水稻の食害被害が見られるようになった。地元農家からは被害拡大を心配する声が多くあげられた。令和元年より、JA、町と連携して種々の被害拡大防止策を緊急的に行った支援活動。	16.1	◎	・スクミリンゴガイ被害の緊急的対策を関係機関と連携しながら取組んでいる。被害調査の地図化や各種対策試験の実施、啓発パンフレット配布など具体的な対策・手立てが講じられている。 ・スクミリンゴガイ被害軽減対策として秋耕耘による貝の破碎とレーザーレベラー施工により均一な水位管理ができる水田環境の整備が重要であることが分かった。レーザーレベラーによる均一化を進めていただきたい。
西部: 梨の生産安定と産地振興	梨は生産者数・面積共に減少し、各地域で梨の廃園が増えている。高単価が期待できる「新甘泉」や省力栽培が可能なジョイント栽培の導入を推進材料として既存の梨生産者に普及啓発するだけでなく、廃園がある地域内で新たな梨づくりを行う者を掘り起こし、梨団地の再生を目指した支援活動。	16.1	◎	・地域として梨団地を維持していくという取組み(後継者、担い手対策として農業者以外の定年退職者等にも働きかけ、新たに就農する人たちを得る)で梨団地再生の一步を得たことを評価。 ・ここでの成果をほかの地域に広げるような取組み、普及活動を期待したい。 ・新たな担い手の育成にはアフターフォローが肝になると思う。徹底した技術指導を行ってほしい。
大山支所: 労務負担軽減の推進(ブロックリー、白ネギ)	ブロックリーは土地利用型の作物として機械化が進み大規模化が可能となっているが、収穫作業については機械化が遅れている。プロジェクトチームを発足などとして収穫作業に関する身体的負担を軽減を目指した活動。	15.8	○	・身体的負担が大きい収穫作業等、重労働を解消させるため、更なる改良をお願いします。 ・電動収穫台車は他の生産物への応用も期待。 ・高齢化に対応した改善技術も不可欠であるが、規模拡大を目指すような若い生産者への対応も検討して欲しい(スマート農業・AI化・自動収穫機、等)。
日野: 畜産産地再興を目指した担い手の育成と支援	日野郡では和牛繁殖農家が戸数・頭数共に減少傾向である。近年、和牛の遺伝的能力の推定にゲノム育種価を用いた選抜や改良が行われているが、管内では十分活用されていない実態があった。 管内生産者の繁殖雌牛のゲノム分析等を行い、高能力牛の情報共有・流出防止と日野郡内への保留、それら成績を基にした農家への個別指導や鳥取県和子牛育成技術マニュアル(M子牛)の取組み推進等を行うことで畜産産地再興を目指した活動。	15.0	○	・ゲノム育種価の活用等、最新の技術やデータを具体的に示しながら課題の解決に取り組んでいる。 ・M子牛について取組み戸数や合格率が年々上がっています。さらなる普及に期待する。

【点数結果の凡例】

- ◎ 16点以上 : 優れた取り組みである
○ 12点以上16点未満 : 妥当な取り組みである
△ 12点未満 : 成果に乏しい取り組みである